

6. マダラ

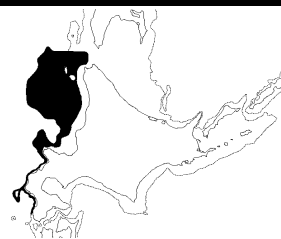
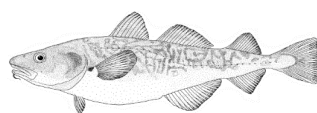
日本海海域

主な漁業と漁期

沖合底びき網：11～翌3月

刺し網、はえ縄

：11～翌2月



生態

◆分布・回遊

標識放流から、道西日本海海域と太平洋海域のマダラの交流は少ないことが分かっています。道北海域から加入し始め、徐々に南下していくと想定されていますが、詳細な分布・回遊については不明です。

◆産卵期・産卵場

◎産卵期：道西日本海では12～翌3月上旬で、南の海域ほど早く、武蔵堆では2～3月上旬とされています。

◎産卵場：海底が硬い泥や砂質の海域と考えられており、海底近くで弱い粘着性のある沈性卵を一回に200～500万粒放卵します。

◆成長・成熟

	道北日本海 被鱗体長 (cm)	道西日本海 被鱗体長 (cm)
2歳		33.1
3歳	40.5	53.1
4歳	51.1	59.2
5歳	60.5	64.8
6歳	65.2	70.4
7歳	68.3	74.4

(11～3月時点)

*) 星野ら (2017) より
*) 加齢の基準日：4月1日

◎成熟体長

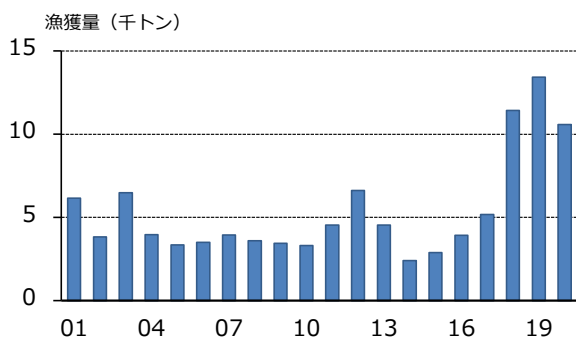
- ・オス：体長41cmから成熟する個体がみられ、体長50cm以上で半分以上の個体が成熟します。
- ・メス：体長45cmから成熟する個体がみられ、体長53cm以上で半分以上の個体が成熟します。

資源評価

[評価年] 4月～翌3月

[資源量の指標] 漁獲量

漁獲量は2015年度以降増加が続きましたが、2020年度は前年から減少して約1.1万トンとなりました。2014年度頃から混獲されていた若齢・小型魚が本格的に漁獲加入したことが、資源量増加の要因と考えられます。資源水準は高水準で、新たな加入がないと長期的に資源が減少する可能性はあるものの、翌年にかけての資源動向は横ばいと判断されました。今後の加入状況を注視するとともに、必要以上に漁獲圧をかけないよう注意が必要です。



2020年度
の水準



高水準

2021年度
の動向



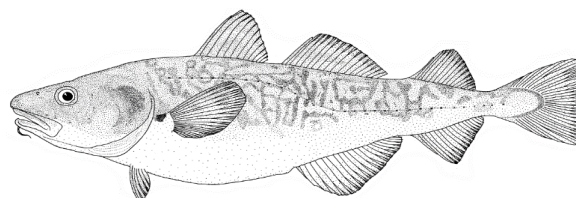
横ばい

※道総研が受託している国の資源評価調査のデータも利用して評価しています。

資源の維持・増大のために！

資源管理の現状(主なもの)

許可の制限条件、漁業権行使規則等で操業期間、漁具の制限等を定めています。



☆今後の加入動向に注視し、必要以上に漁獲圧をかけないよう注意する必要があります。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係
北海道立総合研究機構 中央水産試験場資源管理部

電話 011-204-5477

電話 0135-23-8707